

題 目 家庭用高額省エネ機器の導入を規定する心理要因と属性要因の検討

氏 名 小林 翼

指導教員 大沼 進

世界的に省エネルギーが求められている中、家庭におけるエネルギー効率をさらに高めるには、こまめな節電や節水といった省エネ行動だけではなく、太陽光発電設備など導入に高いコストのかかる省エネ設備の普及を促進していくことが効果的であるとされている。しかし、高額な省エネ設備の導入は世帯収入や住居形態といった属性要因が強いと考えられてきたため、導入にどのような心理要因が影響しているかについての研究はほとんどみられない。本研究では、省エネ設備の導入家庭をモデル化するため Bamberg (2012) のステージモデルを基にした仮説モデルを設定した。ステージモデルとは、目標意図、行動意図、実行意図という段階を経て実際の行動に結びつくというものである。ステージモデルの特徴は、従来の環境配慮行動のモデルで説明することのできなかつた、行動をしようという行動意図が高まっても実際の行動に移すことができないような行動を扱うために、特定の場面において行動を喚起される意図である実行意図をモデルに加えた点である。仮説モデルの検証のため、北海道内在住者を対象に割り当て法による Web 調査を行い、312 の有効回答を得た。結果、省エネ設備の導入有無には導入意図と、住居所有の有無、専業主婦(夫)であることが影響し、世帯収入の影響は見られなかった。また、構造方程式によるモデルの検定を行ったところ、省エネをしたいという目標意図、省エネ設備を導入してみたいという行動意図、そして設備を実際に導入してみようという導入意図を形成する段階を経て、省エネ設備が導入されるというステージモデル型のモデルによって省エネ設備の導入までの過程を説明できた。世帯収入があっても省エネ設備の導入には至らなかったことから、必ずしも経済的要因だけで高額省エネ機器の導入は説明できず、むしろ、導入の予測には環境配慮行動のモデルが有効であることが示された。さらに、作成したモデルから、住環境における制約があっても介入によって導入の動機を高めることが出来る可能性が示唆された。本研究で作成されたモデルは、省エネ設備の導入を促進するための具体的な記入策の検討に役立つだろう。